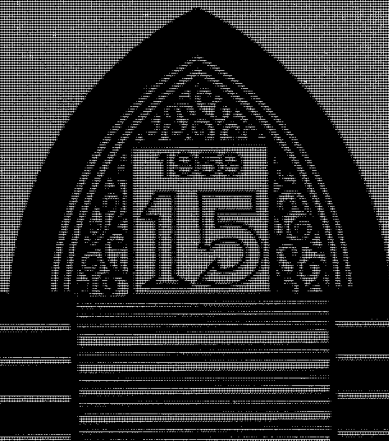


日本大学



工科校友会

# 目 次

会頭 古田重二良氏の人間性を語る	総長 永田菊四郎	3
所感寸言	工科校友会会長 柴田 衛	4
日本大学工業学園卒業生一覧表	校友会事務局	4
欧米旅行記		
1. 国際溶接会議に出席して	対談 (工 博 成瀬 勝武教授 編集幹事 亀井幸次郎)	5
2. 西欧諸国を旅して	土木四回卒 粟田 亀藏	11
3. アメリカ便り	機械8回卒 木村 泰之	14
この一年を回顧して	理工学部副委員長 齋藤 孝	16
津田沼自治会活動状況	短大1部1年 大村 寛達	17
夏期実習	土木4年 大高 康司	18
絵と詩と若さと	工化2年 平沼 勝子	22
太宰文学と私	薬学2年 小西 毅	23
円覚寺に参禅して	工経3年 篠 敏夫	24
永遠の旅路	薬学2年 三月 明美	25
ブロック会議の仲間	薬学2年 山口 智子	29
技術士制度と国家試験について	力石事業委員長	30
支 部 便 り		
福島, 和歌山, 神戸, 佐賀, 長崎, 熊本, 防衛庁建設本部		31—39
双葉会, 桜門建築会総会, 宮城, 齋藤富造君の逝去を悼む		38—39
学 校 ニ ュ ー ス		
日大原子力研究所の核融合研究室		40

## 日本大学工科校友会

### 編 集 委 員

委員 長	筒 井	助 次	幸 郎
委員 幹事	亀 井	幸 真	治 順
委 員	伊 藤	一 郎	徳 己
”	大 穴	育 茂	恒 武
”	宮 川	寛 亮	達 浩
”	木 下		
学 生 委 員	小 林		
”	小 彦		
”	大 村		
”	小 野		
”	寺		

1 9 5 9

VOL. 4 No. 15

日本大学工科校友会誌

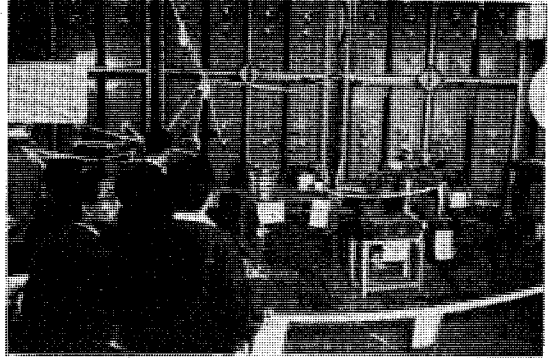
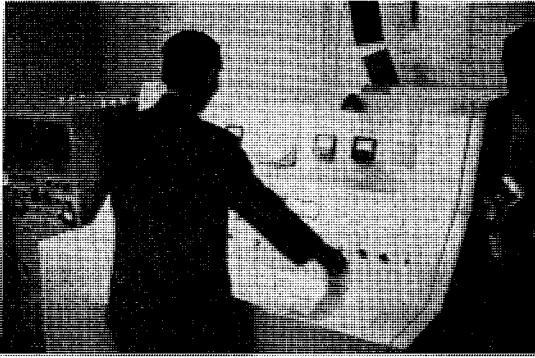
### 桜 工 第15号

昭和34年3月20日 印刷  
昭和34年3月25日 発行

編集人 藤 田 実  
発行人 高 木 政 司

東京都新宿区市谷加賀町一ノ十二  
印刷所 大日本印刷株式会社

東京都千代田区神田駿河台1の8  
発行所 日本大学工科校友会  
電話東京(29)代表7711-9番  
振替口座東京162710番



## 日大原子力研究所の核融合研究室

原子力の平和利用が世界の科学者の研究焦点としてクローズ・アップしたのは、4年前のジュネーブに於ける第1回原子力平和利用会議である。

開会演説におけるバーバ議長（インド）の「水爆の平和利用は今後20年以内に実現されるだろう」と発言した事が発端となったが、今日では米英ソ三国を中心にして世界の各国で研究がすすめられている。

我国ではノーベル物理学賞の湯川博士や朝永博士などが中心になって、昭和32年秋より核融合懇談会を誕生せしめ、定例会議が持たれている。

原子力委員会にも専門部会として核融合部会が設けられ日本における研究方針につき各種の討議、会合が持たれ研究が進められている。大阪大学や名古屋大学（国立大学）ではすでに、実験装置ができ研究に着手している。本学では核融合懇談会の前後から原子力研究所の設置を計画し、懇談会の世話役の湯川博士を大学の顧問に迎へ

昭和33年度より工学部内に物理学科を新設し学部の名称も理工学部と改称したのである。

本学の核融合研究室は阪大のそれよりも大規模のもので予算1億5千万円を計上（5年間）し、医学部、歯学部、農獣医学部等自然科学系列の関係学部と相提携し、研究をすすめられる構想で本年2月10日に開所式が行われた。

この研究室の設計担当者川崎栄一教授の言によれば「この装置は米国のパイロトロンと同じもので、両端を強くした磁場を作り、その中にプラズマ（注1）を閉じこめて加熱しようというものだ。このための電源コンデンサの容量は640マイクロ・ファラッドという大きさで、いままでも我国で一番大きかった阪大の3倍もある。此の実験装置により最高1000万度Cまで作り出し、プラズマ物理の研究をしようと考えている」との事である。

（注1）超高温による原子核と電子が分離したイオンの状態

### 経常会費払込と桜工購読について

経常会費（年額200円）は毎年お納め下さい。

地方会員及職場会員の方は夫々自己所属の支部に職場会員を除く在京者は直接下記本部にお納め下さい。会誌は事務局よりお送りします。

東京都千代田区神田駿河台1-8

日本大学工科校友会本部

振替東京192710番

### 県支部結成のお願い

各県各地毎に専門学科毎に部会を作り、夫々会合をして居られることと思います。本誌4頁にあるように現在は8科から卒業生が出ています。物理、数学も増設されました。各科と連繋の上全工科の会合にして下さい。

会合の様様と（写真共）名簿等を本部に御連絡下さい  
原稿次回送りの弁

第15号は学生編集委員の活躍により原稿山積、一部を次号に送りました、悪しからず。

次号（第16号）の予告

次号は近畿特集号の予定です。大阪支部長が中心となり、近畿各支部に呼かけ準備中です。近畿特集を祝し各県支部、職場支部、専門部会、教室便り、クラス会便り等の通信を事務局に送って下さい。（写真を忘れずに）